

モニタリングレポート 2014-2018

1. 要旨

浜松市は世界に誇る多くの起業家や産業技術、個性豊かな文化を創出してきた創造都市です。地域の人々が多様な伝統文化を受け継ぎ、人材や技術の集積を活かしたまちづくりに取り組み、「ものづくりのまち」「音楽のまち」として発展してきました。また、世界的な楽器メーカー、ヤマハ・カワイ・ローランドの本社がある浜松市だからこそできるアプローチで、音楽の多様性と可能性を提示してきました。

楽器産業が集積する都市・浜松の文化芸術を活かしたまちづくり、音楽の持つ潜在的な力を引き出していく事業などを国内外に向けて発信していく中で、浜松市は2014年12月にユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）の音楽分野に加盟しました。

UCCNに加盟してからの4年間は、本市が従来から力を入れてきた、市民に音楽の素晴らしさや楽しさに触れる機会の提供や、音楽を基盤とした交流や人材育成に加え、UCCNに対する貢献として定めた国際的な活動における5つの基本方針に基づいて戦略的な事業を推進してきました。

| |
|--------------------------|
| 1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進 |
| 2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現 |
| 3. 国際レベルの人材の育成と交流 |
| 4. サウンドデザインの聖地としての貢献 |
| 5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出 |

「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を都市の将来像に掲げる浜松市では、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、暮らしの質を高めていく都市を目指し、今後も新たな挑戦に取り組めます。

2. 基本情報

2.1 都市名: 浜松市

2.2 国名: 日本

2.3 創造分野: 音楽

2.4 加盟日: 2014年12月1日

2.5 報告書提出日: 2018年11月30日

2.6 報告書の作成責任者: 浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市事業推進グループ

2.7 前回報告書提出日: -

2.8 連絡担当者: 浜松市 創造都市・文化振興課 創造都市推進担当課長 鈴木 三男

3. ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献

3.1 過去4年間のUCCN年次総会への参加回数:

4回(通算7回、2011年11月 ソウル(韓国)、2013年9月 ボローニャ(イタリア)、2014年9月 成都(中国)はオブザーバーとして参加)

2015年5月 金沢(日本)

2016年9月 エステルスンド(スウェーデン)

2017年6月 アンギャンレバン(フランス)

2018年6月 クラクフ&カトビーツェ(ポーランド)

3.1.2 サブネットワーク・ミーティングへの参加

2015年1月 グラスゴー(英国)

2015年12月 浜松(日本)

2017年3月 アデレード(オーストラリア)

2017年10月 カトビーツェ(ポーランド)

2018年2月 キングストン(ジャマイカ)

3.2 UCCN年次総会の主催実績: 未開催

3.3 1つまたは複数のUCCN創造分野の代表者会議の主催:

2015年12月 サブネットワーク会議

参加都市(加盟申請中だった都市を含む): ボローニャ、セビリア、グラスゴー、アントワープ、ブラザヴィール、ハノーバー、マンハイム、アデレード、イダーニャ・ア・ノバ、カトビーツェ、キングストン、サルヴァドール、トンヨン、ルッカ、浜松

3.4 ネットワーク加盟都市が多数参加した創造都市の課題に関する国際会議の主催

2015年12月 世界創造都市フォーラム in 浜松 2015

参加都市(加盟申請中だった都市を含む): ボローニャ、セビリア、グラスゴー、アントワープ、ブラザヴィール、ハノーバー、マンハイム、アデレード、イダーニャ・ア・ノバ、カトビーツェ、キングストン、サルヴァドール、トンヨン、ルッカ、札幌、名古屋、浜松

2016年12月 サウンドデザインシンポジウム in 浜松 2016

参加都市: ハノーバー

3.5 UCCNの運営、コミュニケーションおよび可視性を確実にするためのユネスコ事務局への経済的支援: 未実施

3.6 運営グループの経験とその期間: 未実施

3.7 申請書の評価への参加(年間評価した申請書の数):

2015年 1都市、2017年 3都市

4. UCCN の目的を達成するために地域レベルで実施された主な取り組み

浜松市は、以下に挙げる UCCN の目的を達成するために様々な取り組みを進めてきました。

- I. 公共セクターと民間セクターと市民社会とのパートナーシップを通じて、創造性を都市発展の必須要素としていること
- II. 文化財と文化サービスの創造、生産、流通、楽しさを強化していること、創造経済を発展させていること
- III. 文化的な生活へのアクセスや参加、文化財やサービスの享受の促進、特に女性や若者を含む、疎外化された、あるいは脆弱なグループや個人の享受を改善すること
- IV. 創造性とイノベーションのハブを開発し、文化分野のクリエイターと専門家の機会を広げること
- V. 地域の開発戦略・計画に文化と創造性を統合すること
- VI. UCCN における意識改革や、持続可能な都市発展における文化と創造性の役割を強化し、この分野における研究と分析を支援すること

4.1 「創造都市・浜松」を推進するための組織づくり

4.1.1 浜松市創造都市推進会議（I、V）

2014 年、企業、各種団体及び行政が相互に連携して創造都市としての発展を推進するための新組織「浜松市創造都市推進会議」を立ち上げるとともに、音楽専門部会を設置し、音楽文化の振興、音楽産業の振興、音楽人材の育成などについて議論しました。

| | |
|-------------|---|
| 浜松市創造都市推進会議 | 静岡文化芸術大学／公益財団法人浜松市文化振興財団／浜松商工会議所／一般社団法人浜松創造都市協議会／浜松市／ |
| 音楽専門部会 | 静岡文化芸術大学／ヤマハ株式会社／株式会社河合楽器製作所／ローランド株式会社／公益財団法人浜松交響楽団／浜松市吹奏楽連盟／浜松市合唱連盟／浜松市民バンド協議会／浜松学芸高校／公益財団法人浜松市文化振興財団／ |

4.1.2 ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会（I）

UCCN 加盟を機に 2015 年から 2017 年の 3 年間でリーディング事業を実施するため、楽器メーカー、学術機関、経済・文化・観光・国際分野の団体と行政により実行委員会を立ち上げました。実行委員会が主催した事業は 5.1 で後述します。

| | |
|-----------------------|--|
| ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会 | 公益財団法人浜松市文化振興財団／静岡文化芸術大学／光産業創成大学院大学／ヤマハ株式会社／株式会社河合楽器製作所／ローランド株式会社／公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構／浜松商工会議所／日本貿易振興機構（ジェトロ）浜松貿易情報センター／公益財団法人浜松観光コンベンションビューロー／公益財団法人浜松市国際交流協会／浜松市／ |
|-----------------------|--|

4.1.3 浜松アーツ&クリエイション（IV、VI）

市民が主体となった創造的文化活動の活性化を専門的に支援するため、中間支援組織「浜松アーツ&クリエイション」を 2018 年 4 月に立ち上げました。専門人材による支援により、文化芸術がもたらす効果をまちづくり、観光振興、教育、福祉等に波及させ、文化活動の経済的自立、創造産業の振興及び地域課題解決に向けた活用を目指します。

4.2 市民の創造性による地域課題の解決 みんなのはままつ創造プロジェクト（I、VI）

市民の創造性を引き出し、創造都市の実現に向けて地域が一体となって取り組むため、市民活動団体や企業等が企画・実施する創造的な取り組みを助成・支援する事業です。2012年からスタートし、これまで440件の提案を受け、222件を採択しました。市民の手によって、音楽分野に限らず、市民の暮らしの質や豊かさを高める多様な取り組みが行われました。

<取り組みの例>

- たけし文化センターARSNova プロジェクト

実施団体：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

障がい者を個性として捉え、障がい者のアート制作やパフォーマンス等を通じ、障がい者の自立と社会の関わり方に対する新しい提案を示しました。



- とって食べるプロジェクト

実施団体：昆虫食倶楽部

セミ、バッタ、ハゼなど商店では手に入らない「食材」を実際に捕獲して食べる活動を通じ、食に対する感謝や、浜松の豊かな自然環境を守ろうとする機運が高まりました。



- 森林資源のプロモーション・新プロダクト創造プロジェクト

実施団体：新天竜プロジェクト

林業従事者の減少などの課題を抱えている浜松市の天竜地域の森林の価値と課題を広く伝え、新しいプロダクトを創造するため、森林ガイドツアーや展示会を実施しました。



4.3 市民音楽文化振興事業 公共空間を活用したコンサート（Ⅰ、Ⅲ）

市街地の屋外スペースを活用し、まちなかコンサートを年間 30 回開催しました。また、秋にはハママツ・ジャズ・ウィーク、やらまいかミュージックフェスティバルなど、市民や企業が主体となった音楽イベントを毎年実施しました。

コンサート観客数（人）

| 年度 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|
| まちなかコンサート | 27,400 | 22,225 | 24,250 | 18,900 |
| ハママツ・ジャズ・ウィーク | 13,140 | 14,050 | 16,000 | 9,252 |
| やらまいかミュージックフェスティバル | 30,870 | 31,252 | 31,854 | 29,080 |

※2017 年は、台風の影響により複数のコンサートが中止となりました。

4.4 芸術文化人材育成事業

4.4.1 アクトシティ音楽院（Ⅲ、Ⅳ）

国内外で活躍できる音楽人材を育成するアカデミーコースでは浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバルを、市民が音楽文化に楽しむコミュニティコースでは主催者育成セミナー、子ども音楽セミナー、音楽指導者派遣事業などを行いました。

| 年度 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|
| アカデミーコース受講者数（人） | 122 | 120 | 112 | 111 |
| コミュニティコース受講者数（人） | 1,717 | 2,872 | 2,773 | 2,440 |
| 音楽指導者派遣事業派遣回数（回） | 251 | 251 | 372 | 450 |

4.4.2 ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松（Ⅲ）

次代の音楽文化の担い手を育てるため、小学 3 年生～高校 3 年生からなるオーケストラ、合唱団の育成事業を推進しました。

4.4.3 こども音楽鑑賞教室（Ⅲ）

子どもの頃から質の高い本物の音楽に触れる機会を創出するため、市内小学校 5 年生全員（約 7,500 人）を対象とした、プロオーケストラの演奏を体験する事業を毎年実施しました。

4.5 創造産業の育成

4.5.1 楽器メイカーズフェスティバル（Ⅱ、Ⅳ）

楽器のまち・浜松に集積する楽器づくりの職人、エンジニア、デザイナーなどの技術力・創造力に光を当てたフェスティバルを開催しました。楽器の展示、楽器作りワークショップ、ピアノ解体ショー、コンサート等を行いました。

開催日 2015 年 12 月 5 日～6 日



4.5.2 楽器フェア、NAMM Show への共同出展（Ⅱ）

浜松市の楽器関連の中小企業の販路開拓を支援し、国内外でのプレゼンスを高めるため、日本最大規模の楽器の見本市「楽器フェア」、アメリカの「NAMM Show」に出展しました。

出展実績 楽器フェア：2016年4社、2018年4社（2年ごとに開催）

NAMM Show：2016年5社・市長によるスピーチ、2017年7社、2018年5社

4.6 音楽を通じた異文化理解と多文化共生に向けた取り組み 浜松市楽器博物館（Ⅱ、Ⅲ）

浜松市楽器博物館は、日本で初めての公立楽器博物館として1995年に開館し、「世界の楽器と音楽を平等に扱う」というコンセプトのもと、世界中から楽器と楽器に関する資料を収集し、音楽を通じて異文化への理解を深める事業を推進しています。常時1,500点余の楽器を展示しているだけでなく、小学校での特別授業など教育普及活動にも力を入れています。また、年間約30回のレクチャーコンサートやワークショップ、所蔵楽器によるCDやDVDの制作を行い、これらの取り組みが評価され、2014年、民族音楽学の権威ある賞のひとつである「小泉文夫音楽賞」を受賞しました。UCCN加盟後、世界への情報発信機能を強化するため楽器展示機能を大幅に充実させました。2016年4月にリニューアルオープンし、2018年6月には累計入館者数が200万人を突破しました。

| 年度 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|-----------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 入館者数（人） | 86,605 | 96,236 | 88,139 | 87,370 |
| 小学校での授業参加者数（人） 〔実施回数（回）〕 | 1,103 〔3〕 | 2,144 〔8〕 | 2,583 〔7〕 | 2,363 〔5〕 |



5.UCCN の目標を達成するために都市間の協力を通じて実施された主な取り組み

5.1 ユネスコ音楽都市はままつ推進事業

5.1.1 世界創造都市フォーラム in 浜松 2015 (I、V、VI)

UCCN 音楽分野加盟都市と連携し世界創造都市フォーラムを開催しました。UCCN 音楽分野の加盟都市 7 都市による実践発表を行うとともに、Fête de la Musique の創設者であるジャック・ラング氏 (元フランス文化大臣)、創造都市ネットワークの創設者である松浦晃一郎氏 (ユネスコ第 8 代事務局長) などをゲストに迎え、議論を重ねました。UCCN 音楽分野の加盟都市の賛同を得て、「音楽の多様性と創造性を探求する“浜松アジェンダ”」を参加者全員により採択しました。

開催日 2015 年 12 月 4 日

テーマ 音楽を通じた文化的多様性の実現に向けて、音楽の新しい創造性を求めて

参加者数 203 人

参加都市 3.4 を参照



5.1.2 世界音楽の祭典 in 浜松 2016 (I、III、VI)

“浜松アジェンダ”の「音楽を通じた文化的多様性」を具現化するため、UCCN 音楽分野の加盟都市と協働して開催した音楽祭です。メインコンサートの他、中心市街地の公共空間やショッピングモール、ジャズバーなどでのミニコンサートも行い、市民が世界の多様な音楽を体感する四日間となりました。

開催日 2016 年 11 月 3 日～6 日

テーマ 世界と響き合う新しい音楽文化の創造

音楽監督 三宅純

入場者数 20,054 人

出演者数 36 グループ (団体・個人)、19 か国より、約 600 人 (うち、海外から 119 人)

参加都市 UCCN 音楽分野加盟都市 (セベリア、ボローニャ、アントワープ、ブラザヴィル、ハノーバー、マンハイム、アデレード、イダーニャ・ア・ノバ、カトピーツェ、キングストン、リバプール、サルヴァドール、トンヨン) ほか、7ヶ国



5.1.3 サウンドデザインシンポジウム in 浜松 2016 (I、V、VI)

“浜松アジェンダ”の「音楽の新しい創造性」を具現化するため、「サウンドデザイン」をキーワードとしたシンポジウムを開催しました。地域が一体となって聴覚の問題に取り組んでいるハノーバーの先進事例の発表をはじめ、医療、教育、環境など他分野における音の可能性について議論を深めました。

開催日 2016年12月16日

テーマ サウンドデザインシティを目指して～音と人が共鳴する未来の都市像～

参加都市 ハノーバー

参加者数 154人



5.1.4 サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2017 (I、II、III、IV、VI)

サウンドデザインシンポジウム in 浜松 2016 で示された「サウンドデザイン」の可能性を、具体的に体感できるフェスティバルを開催しました。楽器産業の集積地である浜松市の特性を活かし、音に関する国内外の先進的な製品、アート作品、楽器の展示や、アーティストによるパフォーマンス、ワークショップを実施しました。また、創造産業の創出を目指し、プレイベントとして10月14、15日にサウンドハッカソン「ハママチューン」を実施しました。

開催日 2017年12月9日～10日

テーマ What is SOUND DESIGN?

出展者数・出展点数 25団体・64点

協力都市 ボローニャ、ハノーバー、神戸、名古屋

来場者数 5,332人



5.2 音楽文化発信・交流事業

5.2.1 浜松国際ピアノコンクール（2015、2018）（Ⅲ、Ⅳ）

若いピアニストに世界へ羽ばたくきっかけを提供することを目的に、1991年から3年ごとに開催しています。第1位入賞者には国内外で20回を超えるコンサートの機会が与えられます。これまでの入賞者には、チョ・ソンジン（2009年優勝、2015年ショパン国際ピアノコンクール優勝）など著名な演奏家や指導者となった方がいます。市民ボランティアの活動、ピアニストのホームステイやコンクールを終えたピアニストによるスクールコンサート、ホームコンサートなど、市民レベルでの様々な取り組みが実施されているのも当コンクールの特徴です。

第9回実績

| | |
|--------------------|-------------------|
| 開催日 | 2015年11月21日～12月8日 |
| 応募者数 | 449人（42ヶ国1地域） |
| コンクール及びイベント入場者数 | 153,183人 |
| スクールコンサート実施回数（観客数） | 11（4,164人） |
| ホームコンサート実施回数（観客数） | 11（337人） |

※第10回は2018年11月8日～25日に開催



5.2.2 世界青少年音楽祭（2014）（Ⅲ）

青少年音楽団体を国内外から浜松に招き、音楽を通じた浜松市民及び青少年との交流、国際親善を図ることを目的に音楽祭を開催しました。ファイナルコンサートでは、出演全団体約530人による合同合唱が披露されました。

開催日 2014年8月15日～17日

海外からの出演（都市名または国名） ボローニャ、香港、台湾、韓国、マレーシア

入場者数 5,240人

出演者数 1,428人（うち、海外から224人）



5.2.3 APBDA（アジア・太平洋吹奏楽指導者協会）大会（2018）（Ⅲ）

ユネスコより認定を受ける WASBE（世界吹奏楽会議）に加盟するアジア・太平洋 12 ヶ国・地域が設立した APBDA（アジア・太平洋吹奏楽指導者協会）の第 20 回記念大会を浜松市で開催しました。アジア圏内における吹奏楽のレベル向上及び吹奏楽に携わる人々の交流を図るため、吹奏楽に関する研究発表、講演、コンサート等を行いました。

開催日 2018 年 7 月 19 日～22 日

海外からの出演（国・地域名） オーストラリア、中国、韓国、シンガポール、台湾、香港、マカオ

入場者数 9,939 人

出演者数 2,457 人（うち、海外から 936 人）



5.3 音楽文化都市交流事業

5.3.1 ボローニャとの音楽文化交流に関する覚書（2014）に基づく交流（Ⅰ、Ⅳ）

ボローニャと浜松市は、音楽文化の振興や活性化を図るため、2014 年 4 月、音楽文化交流に関する覚書に署名しました。音楽家や青少年の音楽団体の交流、音楽教育関係者による教育法についての情報交換などを行いました。また、浜松市にある静岡文化芸術大学とボローニャ大学はこれまでに 10 人の学生の交換留学を行いました。



5.3.2 ハノーバーとの音楽文化交流に関する確認書（2016）に基づく交流（Ⅰ、Ⅳ）

ハノーバーと浜松市は、国際的音楽事業、高度音楽人材の育成、創造産業の振興の 3 分野について相互連携を行うため、2016 年 10 月、音楽文化交流に関する確認書に署名しました。ハノーバーデジタルサウンド会議でのヤマハ研究者のスピーチ、サウンドデザインシンポジウム in 浜松 2016 でのハノーバーの実践発表、ハノーバーの北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるジュニアオーケストラ浜松団員への弦楽器レッスンや交流コンサートなどを実施しました。



5.4 その他

5.4.1 創造都市国際交流事業「日本へのクリエイティブな旅」(VI)

2016年10月、ユネスコ本部で、日本のUCCN加盟都市と連携し、ユネスコ創造都市の素晴らしさをPRするイベントを実施しました。浜松市は、第9回浜松国際ピアノコンクール審査委員長でパリを拠点に国際的に活躍するピアニスト海老彰子氏によるピアノ演奏や、ヤマハ、カワイ、ローランドの楽器を紹介するパネル展示を行いました。



5.4.2 創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) への参加 (VI)

2013年1月、創造都市の取り組みを推進する日本国内の地方自治体等の連携と交流を促進するために、創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) が設立されました。浜松市は設立当初から参加しています。2018年～2019年は代表幹事都市を務め、加盟団体数約160で構成される同ネットワークのコーディネートをしています。

6. 今後4年間の中長期アクションプラン

新しい価値創造に向けて ～ヒト・モノ・コト 多様なコラボレーションから生まれる相乗効果～

UCCN加盟後の4年間は、国際的な活動における5つの基本方針に基づいて事業を推進してきました。

| |
|--------------------------|
| 1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進 |
| 2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現 |
| 3. 国際レベルの人材の育成と交流 |
| 4. サウンドデザインの聖地としての貢献 |
| 5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出 |

今後4年間は、5つの基本方針を総合的に推進するため、音の可能性の最大化を目指すとともに創造性のシナジー効果を生み出す新たな挑戦に取り組みます。音楽の創造都市として、“響き合い”をキーワードに地域レベル・国際レベルで多様なコラボレーションを強力に展開します。

具体的には、国内外のUCCN加盟都市との協働や異分野との連携を強化するとともに、創造的な人材を輩出する推進体制や支援内容を充実し、その効果を様々な領域に波及させることで、UCCNのミッションや国連の2030アジェンダの達成に貢献していきます。

6.1 ネットワークの目標を達成するための地域レベルでの取り組み

6.1.1 市民の創造的活動の支援体制の強化／浜松アーツ&クリエイション

文化芸術の力を都市の発展に活かすため、浜松アーツ&クリエイションを中心に、市民が主体となった創造的な活動を一層活発化させます。みんなのはままつ創造プロジェクトで発揮された市民の創造性を総合的・戦略的に支援・推進するための仕組みを構築します。

6.1.2 次代を担う音楽人材の育成拠点の創出／市民音楽ホールの整備

次代を担う音楽人材の育成と市民の音楽文化活動や学習成果等の発表の場の創出を目的に2020年度中の供用開始を目指し、市民音楽ホールを整備します。子供たちが音楽文化に親しみ、音楽の都・浜松のまちづくりを支える次世代の担い手を育てる施設としての役割を果たします。

6.2 ネットワークの目標を達成するための国際レベルでの取り組み

6.2.1 音の可能性の最大化への挑戦／サウンドデザインの探求

サウンドデザインシンポジウム in 浜松 2016 で音の可能性について議論を深め、サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2017 では音の可能性を示すアートやプロダクトを多くの人に体感していただきました。

次のステップとして、浜松市の強みである音楽・サウンド産業と、UCCN 音楽分野加盟都市や、デザインやメディアアートなど他分野の加盟都市との連携を強化し、医療、教育、福祉、環境など様々な領域においても、音楽や音の持つ無限の可能性を拓けます。音を活用した地域の課題解決や新たな産業の振興を目指し、サウンドデザインの聖地として国際社会へのさらなる貢献をしていきます。

6.2.2 はままつ響きの創造プロジェクト（2020 東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム）

文化・産業・観光などの関係団体による実行委員会、楽器メーカーや専門家によるプロジェクトチームを設置し、“はままつ響きの創造プロジェクト”として新たな戦略的事業を企画し、2018年にキックオフイベント、2019年にプレイイベント、2020年にメインイベントを開催します。また、2020年以降も、関係団体や専門家と連携してプロジェクトを進めていきます。音楽が常に感動と共に人と人との響き合い（様々な背景を持つ人々の共感や一体感、コラボレーションといった心の繋がり）を生み出してきたことに着目し、以下の視点で事業を実施し、創造性のシナジー効果を創出していきます。

1. 人と人との“響き合い”による共生社会の実現
2. 産学官民連携の促進による地域一体となった取り組みの推進
3. 音楽とアートやデザイン、科学など異分野との協働による新しい価値の創造

6.3 提示されたアクションプランの実行にかかる推定年間予算

予算議決前のため、具体的な額を示すことはできませんが、概ね2018年度と同等の予算規模を見込んでいます。

2018年度 創造都市・文化振興費 約 2,131,000,000 円

6.4 コミュニケーションと認識向上のための計画

- ・ 創造都市・浜松ウェブサイト、Facebook、浜松アーツ&クリエイションや浜松市文化振興財団のウェブサイト等を通じ、情報発信を行います。
- ・ 創造都市関連事業やマスメディアとの共同事業等において UCCN の意義等を発信し、地域におけるステイクホルダーや市民の認識向上に努めます。
- ・ UCCN のウェブサイトにも積極的にニュースを掲載します。
- ・ CCNJ の代表幹事都市（2018-2019）として、創造都市に関心を持つ地方自治体等に対して、UCCN の意義等を発信し、加盟申請への助言や協力などの支援を行うことで、ネットワークの発展に貢献します。